

▪ ロビー託児



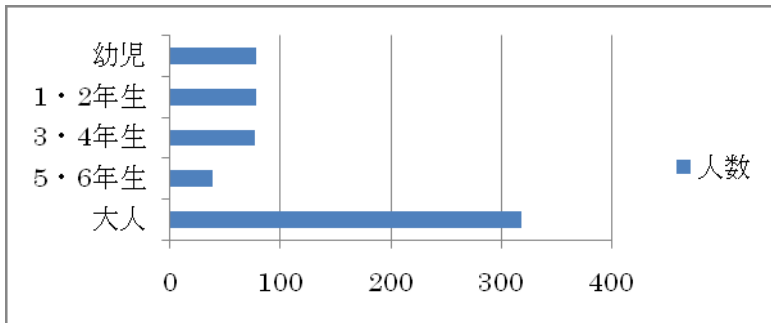
・「音で遊ぼう」



この「わくわくコンサート」では来場者にアンケートをお願いし、その結果を次回からの開催に生かしている。今回の「第4回わくわくコンサート」でのアンケートの結果が以下の通りである。

***アンケート及び来場者の反響**

コンサートの来場者に対してアンケートを行った。無回答のものもあったが合計 590 名の方に協力していただくことができた。

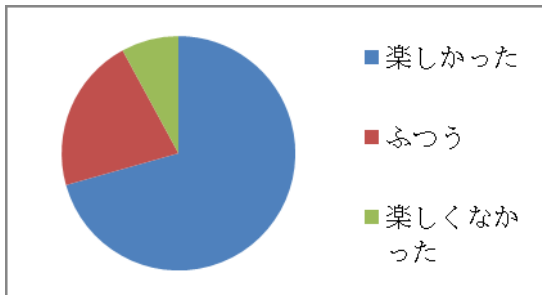


○アンケート学年別内訳

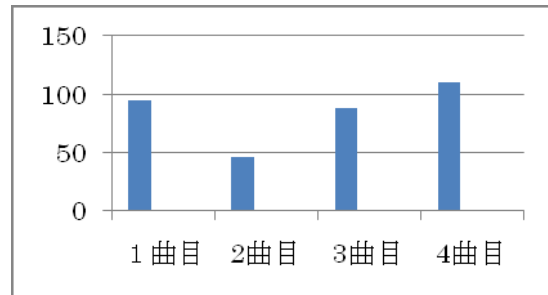
保護者の方がほとんどであったが、子どもたちもたちも沢山自由に記述してくれた。アンケート用紙もプログラム同様、学年別に用意した。

〈子どものアンケート結果〉

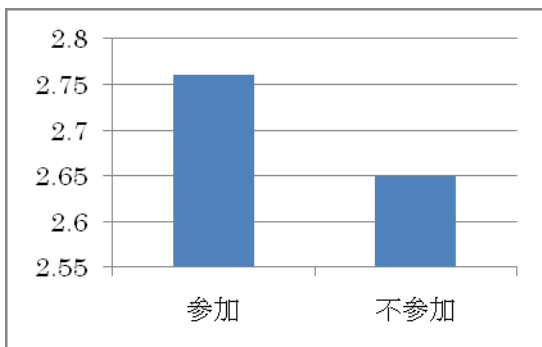
1、コンサートは楽しかったですか。



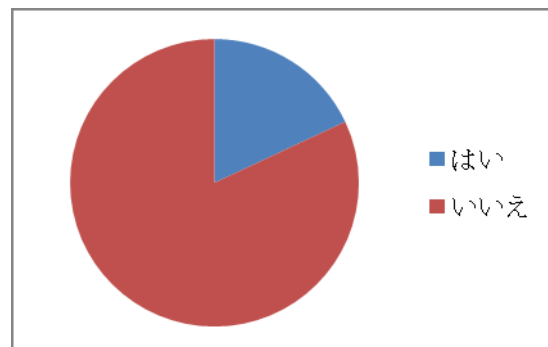
2、どの曲が好きでしたか（複数可）。



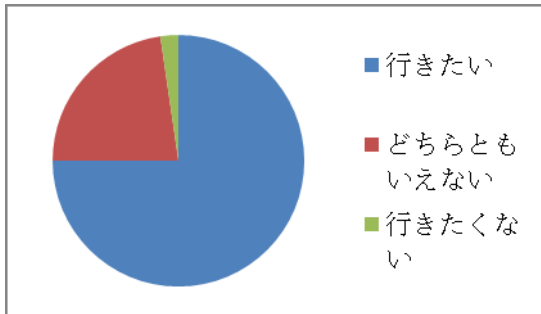
3、イベントに参加しましたか。



4、去年もコンサートに来ましたか。



5、来年もコンサートに来たいですか。

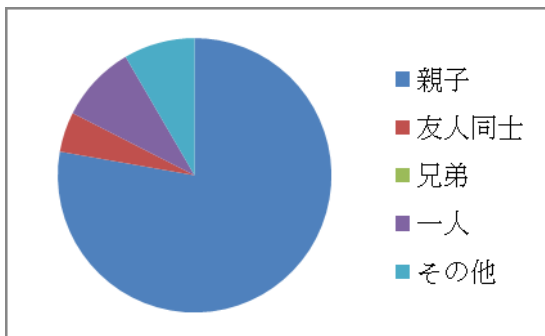


さらに・・・

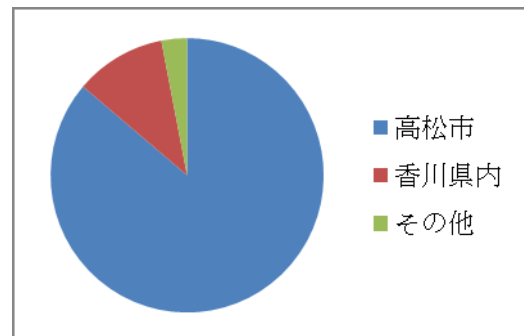
- 平均的にどの曲も満足だという意見が多かった。
- 高学年よりも、低学年の方が満足度が高かった

〈保護者のアンケート結果〉

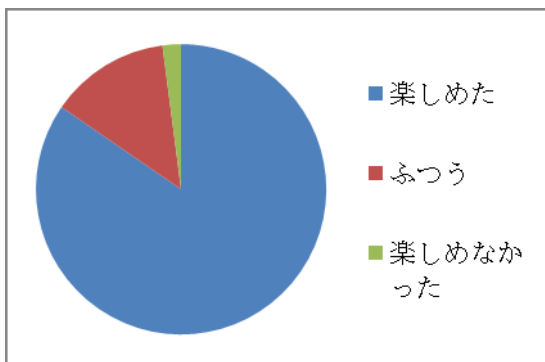
1、どなたとご来場しましたか。



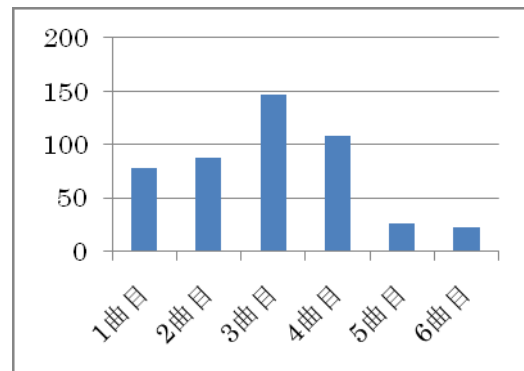
2、どちらからお越しになりましたか。



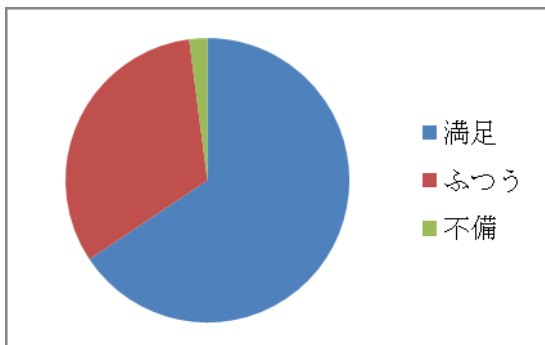
3、コンサートはお楽しみ顶けましたか。



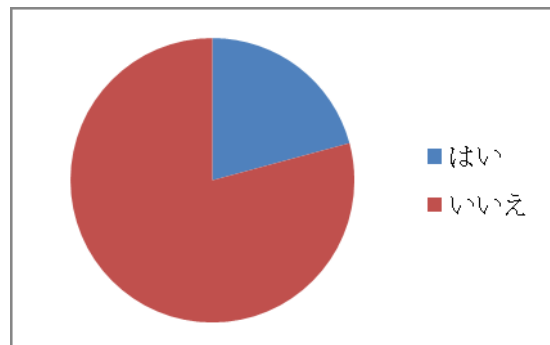
4、どの曲がお楽しみ顶けましたか（複数可）。



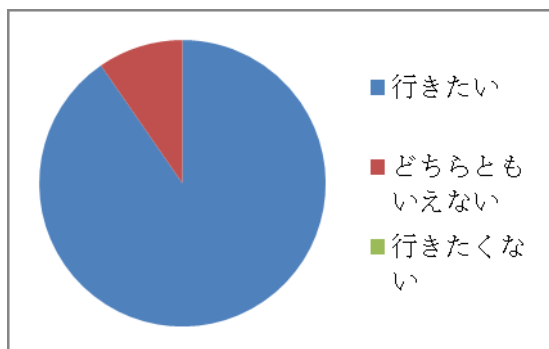
5、スタッフの対応はいかがでしたか。



6、去年もコンサートに来ましたか。



7、来年も行きたいですか。



さらに・・・

●コンサートの曲名で気に入った曲をたずねた結果、4曲名が気に入った方はコンサート自体に満足しているという意見が多かった。

●コンサートに満足している方は、来年も参加したいと感じている。

〈コンサート1・2の反響〉

*良かった点

- ・小さい子でも聞ける機会があって良かった。
- ・分けた方が来場者が増えて良かった。

*悪かった点

- ・時間が来ても入っていか分からなかった。
- ・コンサート1と2の間が長かった。
- ・コンサート1は幼児向けだが、曲も説明も難しかった。

●今回、コンサートを1と2で分けたことについて、意見を求めた結果、良かった点も悪かった点も同じくらい見られた。悪かった点を活かして来年のコンサートをもっと良いものにしたい。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

本事業の組織は、1目的と概要の部分でも述べているが、香川大学内の学部や部活動の枠を超えて組織されており、バックグラウンドの異なる学生や教職員、卒業・修了生なども加わって、それぞれの得意分野を生かして取り組むということが大きな特徴である。これは、香川大学が様々な学部、領域、多くの部活動やサークルを有する総合大学であるからこそ可能なことである。このように香川大学全体で行うこのような事業によって、これまで知り合うことのなかった学生同士や卒業生や修了生との交流も生まれ、香川大学での生活に活気が出てくるのではないかと。

また、地域社会に対しては、クラシックのコンサートに対するイメージを変えることができたのではないかと思う。私自身は教育学部の社会領域に所属しており、普段からクラシックコンサートを訪れる機会はほぼ皆無である。そんな私がクラシックコンサートに抱いていたイメージは、「厳かな雰囲気の中で行われているものである」というものであり、市民の方も同じようなイメージを持っていると考えられる。このようなイメージを持っているために、小さなお子様がいる家庭では、そういうコンサートに参加したくても「子どもがうるさくするかも」という不安から敷居が高くなっている。しかし、本事業は小さなお子様がいる家庭や特別な支援を要する方をも対象として構成されているため、そのような普通のコンサートを訪れる機会がない方へも、音楽に触れる機会を保障することができたのではないかと思う。

なお、本事業は継続して行っていることで地域社会に定着し始めているといえると思う。そのことは、たとえばNHKの地域のお知らせとしてテレビで10日ほど前から広報していただけたら、ラジオ放送

の広報番組に呼んでいただけたりというようなことから手ごたえを感じることができた。また、多くの方々から香川大学の行事として、高い評価を頂いた。香川大学が地域に対してこのような行事を行うということは、「『知』の源泉として、地域のニーズに応えるとともに、蓄積された研究成果をもとに文化、産業、医療、生涯学習等の振興に寄与する。」という香川大学の地域貢献の目標にも合致しており、地域社会に明るい影響を与えているのではないかと思う。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

この「わくわくコンサート」は、香川大学内に留まった行事ではなく、公共施設であるサンポートホールを利用し、多くの一般客を対象にする事業であるため、様々な段取りが必要になる。特に、後援の申請などは事業所と関わるということで、1人の人間としての社会的なマナーや資質が問われる。今回のこの経験は、これから先の学生生活はもちろん、社会に出てからも大きく役立つと考えられる。



また、1つの大きな事業を運営していくことで、個人個人が責任を果たすことの重要さや組織の中の自分の役割というこれから社会に出ていく人間として非常に有意義な経験になった。

加えて、この「わくわくコンサート」はここまで何度も述べているように、異なるバックグラウンドを持った学生が集って組織されている。普段の学生生活を送っている限りでは全く関わらない人間と関わることで、多くの刺激を受けた。また、最初は全く面識のなかったメンバーが協力し合って、1つの行事を成功させたという経験は、人と人との和を実感する非常によい経験となった。

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

今回のイベントを開催するにあたり、多くの方からご支援を頂いた。特に、アドバイザーの先生方をはじめとする、香川大学の関係者の皆様のご協力のおかげで盛大にまた、無事に終えることができた。まず感謝を申し上げたい。

本事業は4回目を迎えたということで、準備から本番までの流れも掴め、計画的な運営ができつつある。その要因として、構成員の中に前年度の実行委員が加わるとともに、実行委員としては加わらない前年度の実行委員も、アドバイザーとして今年度の実行委員を支えるという組織づくりが上手くいっていることが挙げられる。これは本事業を継続して行っていることの効果であると考えられる。

今回、今までの市民の皆様のご意見を踏まえて初めてコンサートを2回に分けて開催するという方式を採り、好評だったと同時に新たな課題も生まれた。

今後の大きな課題は、小さなお子様を持つ家庭や特別な支援を要するの方々など、普段、音楽鑑賞会に参加できない方へ音楽鑑賞の機会を保障したいというこちら側の意図と、静かな環境で純粋に音楽を楽しみたいという市民の方々の意見との折り合いであると思う。この課題は、本事業を継続する限り付きまとう問題であると思うが、試行錯誤しながら来場者の皆様楽しんで頂ける音楽鑑賞会を作っていきたいと思う。

私自身は、今回で3回目の参加となり、開催までの流れは分かっていたが、今回は代表者ということで、今まで以上に勉強になった。組織のトップに立つ責任の重さと全体をまとめることの難しさ、また

事業が終わった時の達成感は、これから教師を目指す自分にとって大きな財産になった。この経験をこれから先の人生に生かしていきたい。

最後に、本事業は多くの方のご協力によって、無事終わることができた。私自身も実行委員をはじめとして多くの方に支えられて成功できたと感じている。この場を借りて本事業に関わった全ての方にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

7. 実施メンバー

代表者	料治 和典 (教育学部 4 年)
代表教員	青山 夕夏 (教育学部)
副代表	角田 佳奈 (教育学部 4 年)
副代表	賀家 祐輔 (教育学部 3 年)
構成員	半田 宗也 (工学部 4 年)
	笹沼 加奈 (教育学部 4 年)
	野菅 竜樹 (経済学部 4 年)
	江口 紘子 (経済学部 4 年)
	赤木 佑衣 (教育学部 3 年)
	尾崎 理恵 (教育学部 3 年)
	久木 麻衣 (教育学部 3 年)
	田島 佐紀 (教育学部 3 年)
	横山 実紀 (教育学部 3 年)
	西田 真悟 (教育学部 3 年)
	岡田 貴行 (教育学部 2 年)



笠原佑梨江 (教育学部 2 年)
篠原沙奈恵 (教育学部 3 年)
藤原健太郎 (教育学部 3 年)
和氣 翔子 (教育学部 3 年)
大倉 静香 (教育学部 2 年)
山下さくら (教育学部 2 年)